

第二種特定鳥獣管理計画対象種の状況と課題について

資料3-3

1 ニホンジカ

(1) 計画対象市町村 (18 市町村)

名古屋市、豊橋市、岡崎市、瀬戸市、春日井市、豊川市、豊田市、蒲郡市、犬山市、小牧市、新城市、尾張旭市、日進市、長久手市、幸田町、設楽町、東栄町、豊根村

(2) 現状

- ア 分布域：既存分布域より西部方向へ拡大傾向。
- イ 推定生息数：緩やかに増加傾向し、近年は横ばい。尾張の東部や豊田加茂地域で生息密度が増加。
- ウ 農業被害：分布域拡大に伴い増加傾向。特に西三河地域や豊田加茂地域では被害額が増加。
- エ 林業被害：近年の被害面積は少ないものの、増加傾向。
- オ 生態系被害：絶滅のおそれが高まった維管束植物のうち、5 種については、ニホンジカによる食害が一因であると指摘（レッドリストあいち 2025 における評価）。
- カ 捕獲状況：近年の捕獲数は増加傾向。新城設楽地域や豊田加茂地域で捕獲数が増加。

(3) 課題

捕獲数は目標を達成し続けているものの、分布域は拡大し、推定生息数も思うように減少していないため、捕獲対策の強化の検討が必要である。また、防護柵等の防除対策を実施しているものの、農業被害額が増加している。

2 イノシシ

(1) 計画対象市町村 (54 市町村)

県内全域 *侵入時に迅速な対応を可能とするため、分布の有無に関わらず設定

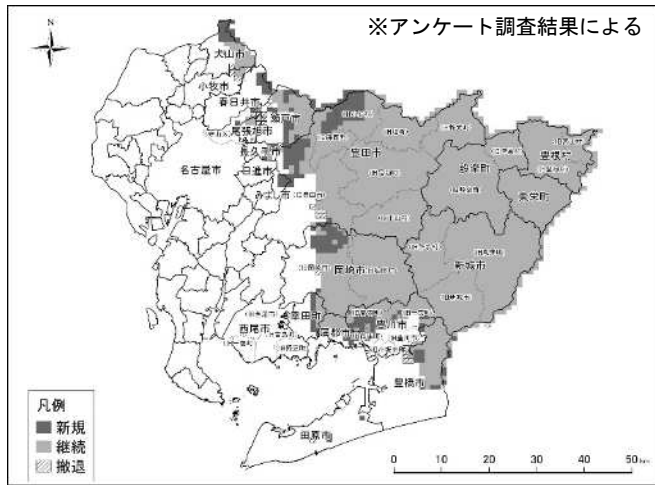
(2) 現状

- ア 分布域：西尾市周辺において縮減。ニホンジカと比べると変化は少ない。
- イ 推定生息数：豚熱の影響により一時減少したが、その後、回復し 1.5 万頭前後（参考値）で推移。
- ウ 農業被害：豚熱の影響により一時減少したが、豚熱発生前の水準に回復。豊田加茂地域での被害が最も大きい。
- エ 豚熱による被害：2018 年度から 2020 年度にかけて、畜産業に大きな被害を与えた。野生イノシシについて、近年も県内で陽性個体は確認されている。
- オ 捕獲状況：豚熱の影響により、一時減少したが、豚熱発生前の水準に回復

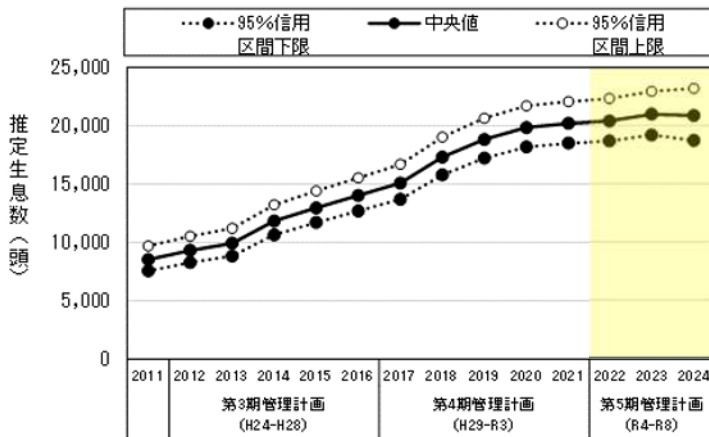
(3) 課題

豚熱の影響により、生息数、農業被害、捕獲数は一時的に減少したが、その後回復し豚熱発生前の水準に戻ったため、対策強化が必要である。現状、豚熱により生息動向の把握が不十分であるため、捕獲目標を設定できていない。

分布域の変化 (2020 年度→2025 年度)



推定生息数の推移

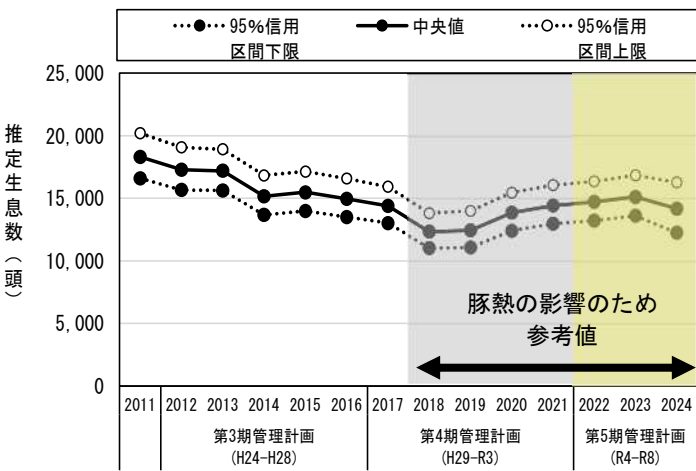


※階層ベイズ法の推定結果による。
※2011～2024 は年度を示す。

分布域の変化 (2020 年度→2025 年度)

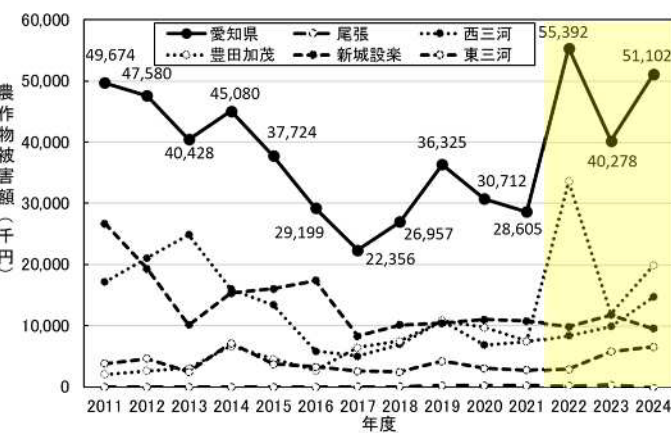


推定生息数の推移

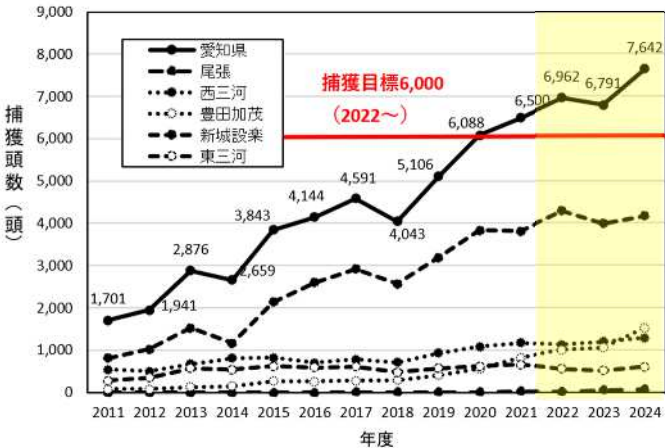


※階層ベイズ法の推定結果による。
※2011～2024 は年度を示す。

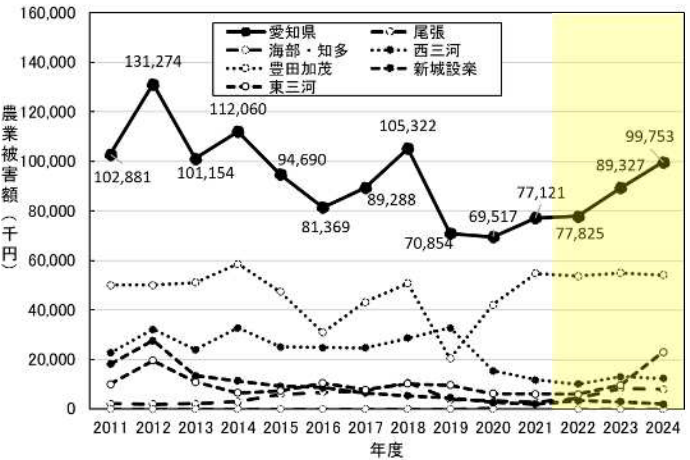
農業被害額の推移



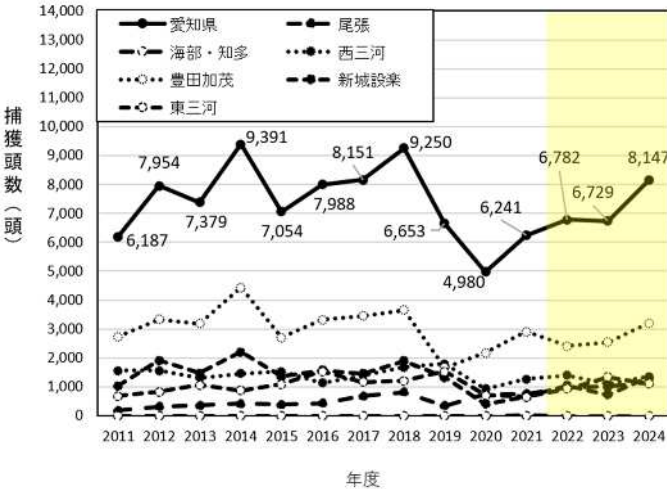
捕獲数の推移



農業被害額の推移



捕獲数の推移



※1～4 の図表において、黄色で着色している範囲は現行計画適用期間を示す。

3 ニホンザル

(1) 計画対象市町村 (10 市町村) ※エリア区分はしない

豊橋市、岡崎市、瀬戸市、豊川市、豊田市、蒲郡市、新城市、設楽町、東栄町、豊根村

(2) 現状

ア 分 布 域：県北部の一部で拡大。一方で、瀬戸市や豊田市の一部では撤退。

イ 生 息 状 況：東三河地域を中心に、少なくとも 46 群れが生息。

ウ 群れの動向：岡崎市は電波発信機を利用した調査等により群れの動向を把握。豊田市は 2024 年度から同様の調査で一部の群れの動向を把握。その他の市町村では群れの動向を把握できていない。

エ 農 業 被 害：年度によりばらつきがある。岡崎市での被害が県全体の 7 割を占める。

オ 群れの加害レベル※：岡崎市、豊川市、豊田市、新城市、東栄町及び設楽町で比較的大きいと推測される。

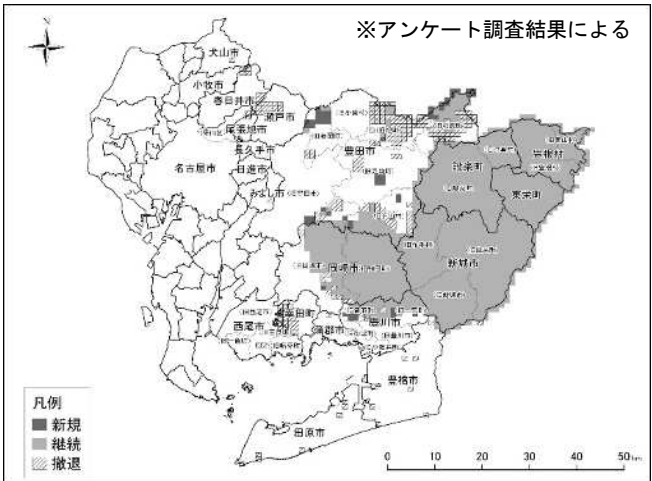
※ 群れの出没規模・頻度、集落や人への加害状況等から総合的に判定される指標

カ 捕 獲 状 況：岡崎市については、動向を把握している群れは加害レベルに応じた捕獲により実施。年度によるばらつきが大きいが、概ね増加傾向。

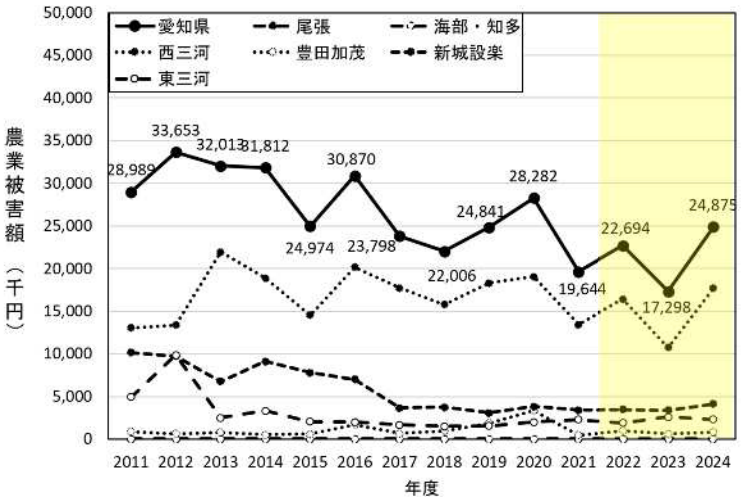
(3) 課題

分布域の著しい拡大は確認されていないものの、農業被害は年度ごとに増減を繰り返しており、依然として被害の低減には至っていない。ニホンザルは群れ単位の管理が必要であるが、群れの動向は十分に把握できていない。各市町村において加害群を特定し、その加害レベルや行動域、群れサイズ等の現況の把握を推進する必要があるとともに、追い払い等の対策の実施体制の整備も必要である。

分布域の変化 (2020 年度→2025 年度)



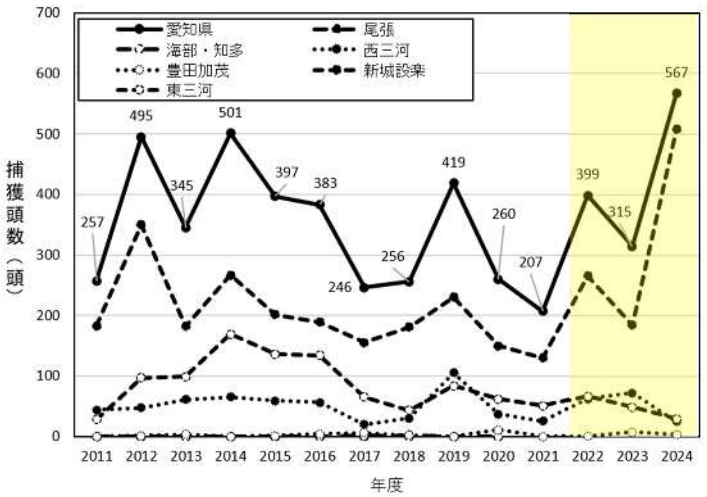
農業被害額の推移



推定群れ分布 (2025 年度)



捕獲数の推移



4 カモシカ

(1) 計画対象市町村 (17 市町村)

名古屋市、豊橋市、岡崎市、瀬戸市、春日井市、豊川市、豊田市、犬山市、小牧市、新城市、尾張旭市、日進市、みよし市、長久手市、設楽町、東栄町、豊根村

(2) 現状

ア 分 布 域：山地部から平野部(北西部)に分布が拡大している可能性。

イ 推定生息数：2020 年度以降、減少傾向に転じ、近年は横ばい。

ウ 農 業 被 害：分布域の拡大に伴い増加傾向。特に豊田加茂地域や西三河地域で被害が大きいが、ニホンジカの被害と誤認されている可能性もあることも留意が必要。

エ 林 業 被 害：2016 年度以降、報告は少なかったが、近年、新城設楽地域等で被害が散見されている。

オ 捕 獲 状 況：豊田市、設楽町及び東栄町で捕獲を実施 (近年の捕獲数は年間 37 頭程度)

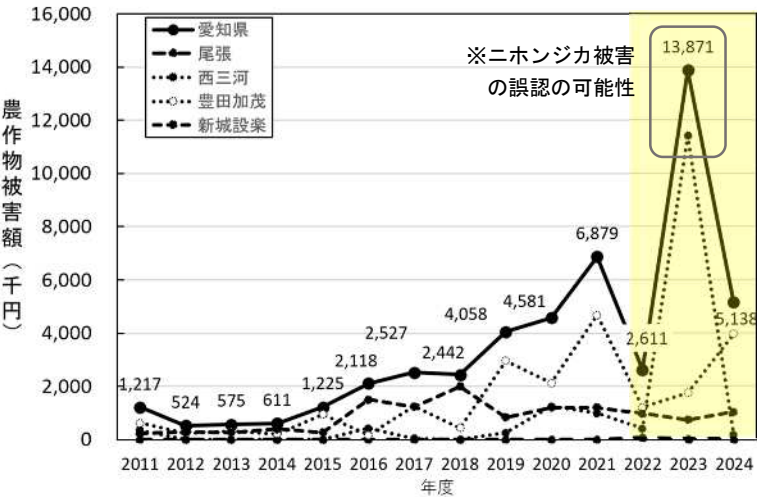
(3) 課題

カモシカは特別天然記念物であることを踏まえ、管理の方針を検討する必要がある。農業被害が近年増加傾向にあるため、防護柵等の適切な被害防除対策を実施する必要がある。また、生息数の増加及び分布域の拡大に伴い、市街地出没や錯誤捕獲も報告されており、対応体制の整備が必要である。

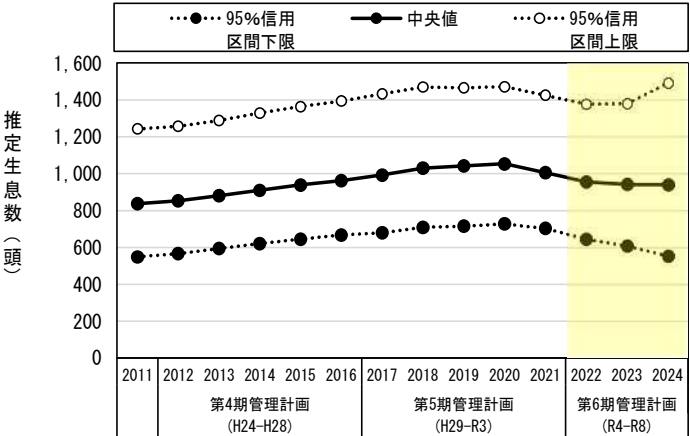
分布域の変化 (2020 年度→2025 年度)



農業被害額の推移

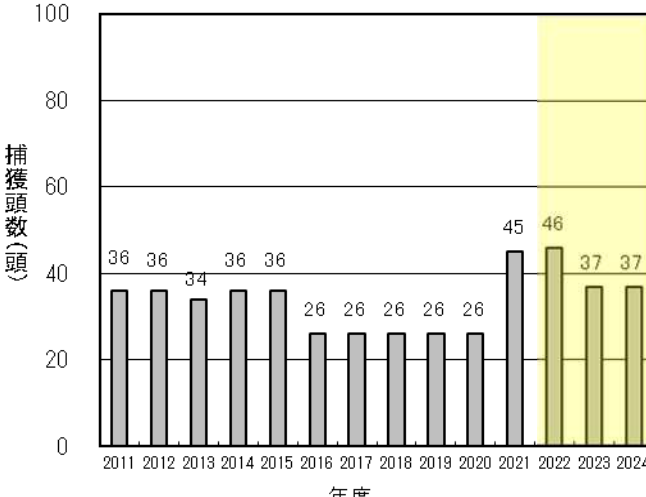


推定生息数の推移



※階層ベイズ法の推定結果による。
※2011～2024 は年度を示す。

捕獲数の推移



※1～4 の図表において、黄色で着色している範囲は現行計画適用期間を示す。